

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 藤井 健 所属： 京都産業大学理学部

課題名： 小中学生を対象とした気象教育「楽しいお天気講座」の実施

共同実施者： 寺野健治, 陰山美加子, 山田勢子, 中島保則

1. 課題の主旨

関西気象予報士会では、小中学校における正規の授業時間を利用した出前授業「楽しいお天気講座」を企画し、平成12年9月から実施しています。その目的は、小中学生に気象の基礎知識を教え、気象を中心とした自然現象に興味を持たせて、科学的考え方を育成することにあります。

2. 活動状況

関西気象予報士会では、会員の中からお天気講座講師を募集し、希望者は登録の手続きをしています。2006年10月31日現在、当会会員は267名であり、このうち、76名がお天気講座講師として登録しており、小中学校への出前授業は、各回3名（1～2名のときもある）の登録講師が担当しています。

17年度の助成対象期間において実施した「楽しいお天気講座」は、27校（延べ数）と1病院（障害者対象）、45クラスであり、1,292名の小学校児童と障害者が受講しました。実施校については、資料1に示すとおりです。

また、16年度の本助成を受けたことを機に、PowerPointによるコンテンツ「天気予報（90分授業）」の見直しを行うとともに、学校から出前授業の要請があった「天気予報（45分授業）」、「台風」、「地球温暖化」についても新コンテンツを作成し、2005年4月より講座の一環としての実施しております。これらのコンテンツを改良するために、2006年2～3月に2回の作業打ち合わせ会を開き、2006年4月1日には、子どもたちも交えて改良コンテンツを公開しました。このとき、山下晃大阪教育大学名誉教授を招いて、「雨粒浮遊実験装置」を使って実験を実施していただくとともに、コンテンツに対して、アドバイスをいただきました。これらの会議の参加者数や会議の様子を示す写真を資料2として、また、コンテンツの一例を資料3として添付します。なお、この他に、お天気講座担当幹事が打ち合わせを行うため、数回集まっています。

3. 結果

17年度の助成対象期間中に、お天気講座を受講した小学校の生徒に対して行ったアンケート調査のうち、2006年10月31日現在で集計を終えた結果を図1および図2に示します。これによると、84%（16年度70%）の生徒が「とても楽しかった」、68%（＼57%）の生徒が「とてもわかりやすかった」と回答しています。16年度と比較すると、「生徒の反応が飛躍的によくなっておりますが、これは、講師の授業技術の向上とコンテンツの改良によるものと考えられます。

このアンケート調査では、生徒から感想と質問を記述方式で受け取っており、代表的なものを資料4に示します。このうち、代表的な質問に対する回答については、Q&A集を作成し、その後の授業の参考資料としています。なお、当講座の成果については、日本気象学会 2006 年度秋季大会（2006 年 10 月 26 日）において、『小学校出前授業「楽しいお天気講座」の最近の状況』のタイトルで発表しました（資料5および資料6参照）。

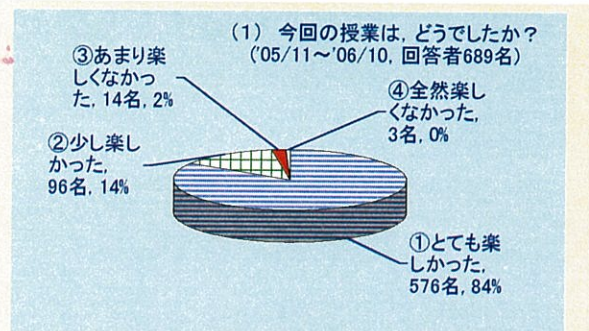


図1 アンケート「今回の授業は、どうでしたか？」の回答率

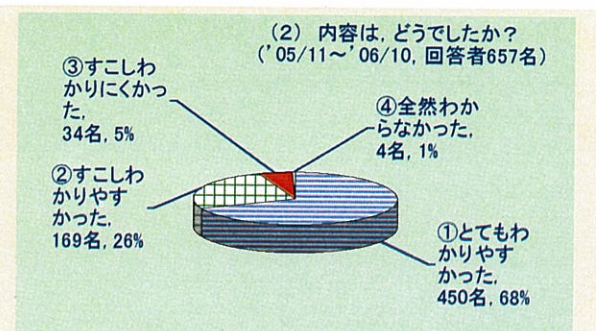


図2 アンケート「内容は、どうですか？」の回答率

4. 今後の課題と発展

(1) 今後の課題

小学校からの希望がある時期（9～11月）に集中し、しかも、実施はほとんどが平日であります。また、学校から申込みがあつてから講座を実施するまでの間、講師の手配や学校との打合せなどスケジュールが非常に密となります。このため、講師（3名）の確保が容易ではありません。

(2) 今後の発展

障害者や子ども病院入院者を対象とした出前授業の充実、イベント「楽しいお天気教室」の実施、小学校教員へのアンケート調査および意見交換会開催などを考えています。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

(1) 学会発表

2006 年 10 月 25～27 日にウィルあいち（名古屋市）で実施された日本気象学会 2006 年度秋季大会において『小学校出前授業「楽しいお天気講座」の最近の状況』とのタイトルで発表しました。

(2) 貴財団への意見

- 助成開始時期が 11 月ですが、学年暦に合わせた 4 月の方が計画を立てやすいと思います。
- 学会発表のための出張旅費に使用できればと思います。
- お天気講座講師に対して、助成金から謝金が拠出できれば、より一層活発な活動ができます。

(3) 添付資料

資料 1～資料 6 を添付します。

以上